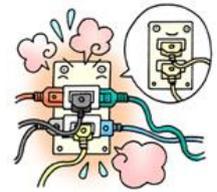


《電気火災を防ぐポイント ～追加版～》



コンセント・プラグ・コード

- 差し込みプラグを抜く際は、コード部分を持って引っ張らず、プラグ本体を持つようにしましょう。
- 差し込みプラグは、コンセントと緩みがないか点検しましょう。
- コードが、家具などの下敷きになったり、押しつけなどにより傷ついたりしないように注意しましょう。
- コードを束ねたり、ねじれたままの状態で使用したりしないようにしましょう。
- コンロの上方など、コードが加熱されるような場所での使用はやめましょう。
- コードを柱などにステップル止めをするのはやめましょう。
- コンセントやコードには、使用できる電気量に制限があります。表示されている電気量を確認して使用しましょう。
- コードを延長するために、コード同士をねじり合わせて、直接つなげて使用すること（手より接続）は危険です。コードに不具合が生じた時は、専門の業者に点検を依頼し、修理してから使用しましょう。
- コードが短絡した際に、瞬時に電源を遮断する機能を備えた配線用遮断器を設置しましょう。

白熱電灯・蛍光灯

- 白熱電球に、可燃物を接触させないようにしましょう。中でも、物置きやクローゼット内で使用する白熱電球に、衣類や寝具が接触しないようにしましょう。
- クリップ式の白熱電球は、傾きや緩みでずれていないか点検しましょう。
- 蛍光灯の安定器は、定期的に点検や交換を行いましょ。
- 直管LEDランプに交換する際は、蛍光灯照明器具との組合せが適合しているか確認しましょう。
- 照明器具に衣類やタオルなどの物をのせたり、覆いかぶせたりしないようにしましょう。

電気製品全般

- 使用する前に、電気製品の取扱説明書をよく読みましょう。
- 使用していない電気製品の差し込みプラグは、コンセントから抜いておきましょう。
- 故障した場合は、自分で分解せず、専門の業者に修理を依頼しましょう。
- 電熱器等の電気製品の周囲には、燃えやすいものを置かないようにしましょう。
- 長年使用していなかった電気製品を使用する場合は、埃の堆積や金属部品の腐食などに注意し、使用する前に専門の業者に点検を依頼して、安全を確認してから使いましょ。
- 長年使用している電気製品は、経年劣化や異音など、定期的に異常の有無を点検しましょ。

地震、風水害時の火災を防ぐために

- 普段から、使用後は電気器具のスイッチを必ず切るとともに、差し込みプラグをコンセントから抜く習慣を身につけましょ。
- 感震遮断機能付の住宅用分電盤等を設置しましょ。
- 地震後は、避難する前にアンペアブレーカーを切り、電気に起因する火災の発生を防止しましょ。
- 断線したり、垂れ下がったりしている電線には、絶対に触れないようにしましょう。
- 一度水につかった屋内配線や電気機器は、漏電など、火災の原因となりますので、使用しないでください。